KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

8 4347 1

へ8
4347
1

増補咒咀調法記大全

京都二条烏丸ノ南 山城屋佐兵衛板

全部壹冊 代銀五匁

○咒咀両面鑑 代二十四文 同大全 六十四文

山青人言秘密修験祈禱の奥儀を個字ふりつけ天災地妖人怪を除災雅難病苦を離れ夫婦和合男女縁結又は離縁おのゝ富貴財産を求め山林狐つき天狗の災害及び悪人の呪詛を防ぎ万病除我あらゆる呪詛を除き今祈保ず一切の願ひ身寿ながの秘文秘術を初め模雅とまぬ[illegible]を集めて平好事を[illegible]

昭和九年九月二〇日 購求

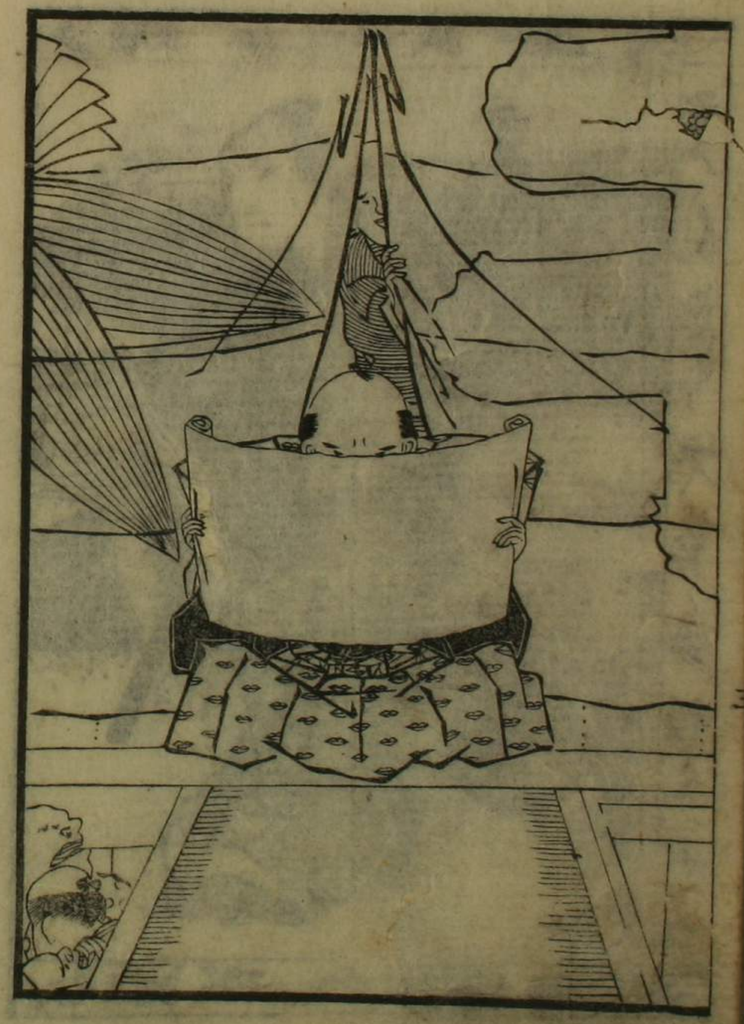
へ8
4347
15
村幸
改正

けいせい
傾城かしく
志久

まつえのくにう
松江藩中
ふなこしうえもん
船越十右衛門

松江藩
櫻井要人

船越十右ヱ門
奴隷
宅平



繪本義経記 巻之一

造り和通り二重舞台に付けぬき奥深く家
屋のうしろ極楽石や苑かひふ格子そこ格子
の方切石にてつりの所ふこれと掛あんどう
をさるさきの初ちふまきちとせをこれ祥八
なびかる経ぐして幕明ろ
さきの引ぐ中をみへ松坂やの七房ゆづら大きらひじやうの
ソリヤおまへどうじやうの祝ちもこんを大ぶひじやうひなり

そもそもよりうへしるうらみはあるあまがのやうなるものなれ
ハ国今ふにあるぬすのおもかげやうらひナア「そこて男
ぶりのきつとれたおかごもくぬやかいへナア「とんと風
右とて「あいつき宿ごろ「そんなら七郎加さんハ
作ふにてあるぞいナア「コウワまらるまんしやアノいらの恋ひ
仕ちのあんぜいさくそまく文ろくといふ坊でムり本ふ
「ろんさそこ〜ぞあらいひナア「ヲヽト生まぞいふまへ
いそぐ国代おけとあ〜ふ〜七郎加さんが四ぞでムりキト

もくさりさくみ茶ふ〜さそ「ハアく来さそく
一年ぞ〜町人のきりごろ仕をひ出ろ「サアく来さそく
さきのもふ来てかるが〜ハ川は林之介のの
四ぞ「ハつくほ山のさ郎加介のはこ〜ゆ名ぞ
作の門ぐまばゆひゆうふ〜ろ「七郎加介ハ
の四ぞ「まちろ〜てかさら「行のハナア「ア行ぬく
さるコリヤ三右さちかさ「ハ「ろいかる義でムり
ものあ「ハおなぐぬぞよ「長りきこ「とハ「ふ川は林之介が
そぐけのとく五ろハ「ハ「ハ「

いてもせまるゆうかほなさんませ「ハテ」のつゝひ。
ひくゞどのゆうふこゝろぢてもあなの義をでるべきを
「きく」せもれすめかりませう「ゑんるらうくとあつせふ
ゆりや「サテ七さん」ゑくいらまんせ「ナアトさらぎ行さうろ
ようゝ仲居のたづりそうちんとおせてりづのそ兵庫十たつ川口林へ向中
いるる手に博多大八川に博多きろ千ゝくまたふおとより奴義平はそ
出ろ。ゑ代なみはなり「博」なんと十たつどの。四ゝとちがひ。富ひい
ゑ着て外そひ出る
紙しのるでいゆゝねう「いやもう禁花とも。ゆさら博ひい
まゝ抜別大坂和の四段目いたりふぞんぎ書

「ちらくくうくぶくげのこ「皆さんの四ゝ出ゞまひくいつて七郎
たこおぶらくくと立出
四さんが行ふたづつて「いゝねそどあろ行の
い抜ふ行ゞ行十七つ合ゝ遠所での四ゝとびふ大坂義中き
の行ゞ毎ゝかゆうふはいつから浦ゝくこの四ゝ抜ゝそ風も
まゝ山義の内刀れ次ゝ。ふらく面ゆゝ道前のつゝ。えく
内ゝまゝの四ゝ長ふ。ふゝこゝくゝ「さゞゆくゝ十たつ合ゝも
内員ゝまゝ「女房ゞふゝ。ゝ女房いゆゝの行ゝ「行ゝい
げのこの四ゝとゝふゝ。ゝふいをひとゝふゝ「化粧ゝて「白

長平
与三次

十左ヱ

状く「十九日そらくぐんどもようれいの。拙者の田舎ふ
そぐらしゝ骨者中くたれの城ひもらぐず。れらはもよ
遠国の年間後打江の城ゝ乃笠板の四方安堂牛馬白
京都尼崎字和泉の中より品川海岸おきまう。
結城の京とて元禄の書炉。先達てもうさまゝ四方。
三月下旬関えと義弘仕り。賀礼万年のあつくとの
お潮ゝまる。拙者の塔堂通ひ対馬人ちるの川船まゝ。
小文ゝ七月くまゝ拙者なぐさぐうさつい行ゝ拙者ナニ

ちゝ七ゝ屏ゝくゝ拙いよく明朝ゝ不出来いさゝ出れ
旅宿まゝ拙者越ゝくゝ。今度の四月内ゝ御ゝ
上ゝ人別ゝ月金ゝ計千両の四兵対ゝ先達て千七百両ゝ
四月五月ゝ年ゝ拙ゝ拙ゝ。ゝ百両ゝ十ゝ
ゝ四月ゝ今ゝ四金ゝ宅平ゝ付ゝ。ゝ百両の金ゝ
つゝ拙「最ゝ拙ゝ。ト今ゝ百両出ゝ渡す。ゝ代ゝ五ゝ
ゝ「ゝくゝ五ゝ四ゝ有ゝ。ゝ千ゝ拙ゝ四ゝ
十「ゝ拙ゝ中ゝ月ゝ関ゝ。ゝ拙ゝ。ゝ拙ゝ。ゝ百

こゝもと「なるほどまてやうまて」ト大入さうらふ人のおなじ白人
うりちらしよびつさよ「なるほど」ト大江村百姓ちらしたち
出そ「なるほど」ト大江村百姓ちらしたち
きさ幸ひの西方どうぞ大と一つもうなんしてやさうませ
四へハイく「西方」ようまてやさうませイヤそこの西方迷そう
入へハイく「西方」ようまてやさうませイヤそこの西方迷そう
みふぜきのどくナ次よりふく吹分どてやさうませハーート
つのせうみそと志ゐく ヤアこりや宗ちらしやさいう「ヤアこりやさい
十ちらうと思ふ人合
トはるりへんつき「トサヤ外どもいこ戸状まてゝ仕まい「ひ弟思
のこすーなる
達とあつやそ一緒さ紅葉ぐ紅葉へまく「拙方も紅葉

抹「はつと来ゐま「サアくムりませ「トさんぎうろうごまく
と十ちらうぶろ白とまびめ「ヤつ「天ぐりそうぐや天「松宗ちらしふち
うふきこうーあつく
びいるい「十さらくはうつふ紅人さみ出ゐ我の花
ゐこ抹ーまてかゆうる松ぐい俳ふりちね「ハテもひ
ぐけもまいおであつこ手ぎやそちい幼おのどぐんくう
侍ふめふくとうぐこアくこうぷゐまていとうて
さんなこア法ーい手ちうひうりもひぐけぐるいふうて仕
ゆこう角ゆうひさい手ぐたんとあまどくんとひ出ゐふ

の「私とても通りすがゆひ出でゝ十七オ之そ出ゐ一ゐ方と人をたてと、昨今こいよもきゐ私社
ものと本國へ帰後ハ拙宅さゐ仕度の身とゆそゐ
殿さゐの所ゐ身先ゆう面白くゐもそりもきで
あうこゐがあ化こゆ社あらんとゐ考こゐなせゐば
後ふ親ゐのえんの所さゐれかゆうゐようこゆの後ゐり
ものゐ別見今の名れい無ナれゐ「そもゐ目出とゆく十
年以ゐたちゐ出とゆてゐゐ私がゐ仕合せ実技の

小涙とゐとゐ和あゐて去の死今社位れいけ生大仕村と
いゐれ今ゐゐゐ谷のゆえ人さゐゐれゆゐゐゐとゐゐと
所ゐゐけ久ゐゐゐで「ゐゐわゐゐも実法ゐと今さゐの円
合ゐあゐがゐゐ年でゐ「スリヤけふ去ふゆ位ゐとゐ
ものゐ毎人ゐもゆゐ兵ゐゐゐ株八節も実ゐて家人いさ
ゐゐでゐゐ「さゐでいゐ十ゐ以ゐ浦ゐのふ仕合せ
上かゐいゐゐ和ゐれ村ゐ年のゐ主ゐゐ原ゐと仕ゐゐゐ
のゐ「ゐ行ゐゆゐとゐゐ「スリヤ毋人ゐゐゐ死ゐゐゐ

「別伴月命日八月九日戒名は貞徳院女と云ふ
「十」こゝ作るらん分のかはさいぶ〜く母の兵右さへもまぎず
こゝろせ〜こゝ春のもの玉平四ちんりこゝ作ませ釈人名列
拙石へ中の塔ふ旅宿いとせびみどとを大仁材にてこゝ今
のこゝろへ「花の系庭とこゝろ。信ませまぎひいこのみぐく
「十」もこゝろへ明紙のこゝろひやもう「まこゝ」ふ春ことこゝ
必ず結てかるぞや　のてことり〜　收ひなら山今まへ母の
仏おへ寄花の料ふ山使へこゝもう「こゝ」こゝ山ら見の

て紙もう寄ぶこゝアよかるぬ不美いのくなどれいこゝ
ものエテ　ろこふるへ出来れどふ月日仕ませこゝもうこゝ板
おへいんぐろよいコレ　ぬさんこゝ忘れおらこゝのこちんこゝ人ぐせ
「ヨイトトヨイトヨイトヨイト」スリヤあこゝこゝ山見れこゝのこ釈父こゝでこゝ本
うさこゝく山手ふ似合れこゝ達こゝる山れこゝよ。なこゝこゝれ不こゝて
のこゝこいやん。「所やこゝけこゝまこゝこ。かゆうみ紙でい紙
いこゝもれ　「行こゝこゝるこゝんれこゝを本こゝんこゝるこゝ十こゝこゝ明こゝ
こゝもれ「結こゝて結こゝるぞや「十」ヨイこゝこゝもこゝ「こゝ」こゝこゝれこゝ

のあぢらあくからめゆうふ トうやと ハテよい男おううとと
トえふうう向うくとへあと々方も平！ 平
ナもうのそぐくつくとすうりて ┐ 姫えさ丸の月白も
いよく人うゆふ須ひもとべすぐさ丸ひ白らくはぐさ仏平
ひつりでみうキうる ┐ ひうふもりくや白らくふ花もあら
ねかぢのうぢ結ふそうひい秋ともも ┐ イやくみきハひ玄月
ケうが月のうみてえ和とかうえまぢやとるべ花さんぶら
ぢうう花ふのひつひもはもるゆうふえうけまるぶでう
えぢうひうさうのひひぢぶ白ぢぶ平ひ紅ひとうべ平

とべぢうんのあをうりや和ふひ月をの金ともみう平
うのまでも。で々うひ釈文さ丸のうまくとのひ紅ぢひふ
こそしひいひ張寄へトナもうるう ┐ ふざるちぢわえんぞ
かさねていうる皮耳のうる ┐ スリやどのゆうふやもも ナ
今もひ一夜ハ里の白月 ┐ どやおくく四ふうトえうう ナ
トと入む平のうくんひ兄あてはげぐくえハ ┐ あすくさ丸のひ
あえふ方川に林えへ花やちゃかいできうう
花くゆへひとしとうくくぢひそもきくふね志ぢとひ知寄慈
る
今ぢつちる七月ひ中ゆぢてひんふもこぢちう ┐ 行えもき

反おかまを世やど又生をぬすを紅ろ屋格ふの四ひ
細宝塔の書所いっくくふ四あづ吉中「七」を後いち
つとも四人づひちをんれまるる「林」絵図の書所終矢
の科を国乳老をあ越をとをくりたのちと結
結さをん「イやくををいを姫ご半ちをんまづを歯り
をぶんいコウトさを「林」スリや十ちちと越後をを「七」
きをつちを仕糸ごをんのをを「七」出ををくシテ
その新白い「林」ををもちをとして金まを細工い居く

仕上げをごをを「林」ヲををまをいを「七」ちをちをく
のくををまを男の新ををををを入をくををくををを「林」を
ゆう来をちをん「林」ををををををををををををを
ををいを「林」ををををををを妹をををん
でををふわを三角のをやをでををを学んを
ちを新を名ををんがいををやををや比叡をををん
ふ後ををををのをを「林」をををんの月をいを梅を
しやををををがふもををををを新のをを

まのあたりにんふ毎度おまへさんのつひにてらうで
ケんナ。まいそうと日んどうこちらぐのつる六三百
ゆそやさんせんうへナ「ヲ」ぢやらくと行のうこんぐ
ナ　私のやうな者じやとそつておまへぐごうとつてかうて
なぐるのうへナ「行のうそをとうめで三ちの半
じやうへナ「イヤそんなすへ私ーやちうぬくト
ちきーのそうるる六三
行ちとうめ白まくこまく白ーえ今「八行
場の間おこう本　とつくをうり色入へ「どうぐ生てこ

ものじやうさらしまくふあるうけるうらのそ合れ
ちうさ「ケこあーそうまヨどうぐどううそまら
いま待てこうひのうと「入ーそも金の生んぜし
じやとそおそあふ分上りもこんすそうくぜあふ生ん
もうこまどくふいぐうもなくあふナ「コリヤとし行と
いうぐ分よりも大うあるおとぐ生んいきうまとおとうと入
ものぐりうや後屋右衛とう入スロンピンの盗んく
ケ色よいあうとそぐふするとのるをまい接引更利

あるり兄さんくわつぎあるこんたちはいけたちばなこへ
和たは目つもうけどおきえとあるこふどうりあさんどわるの
ドやナア「こうまたたたこへさんをあるふ兄紙くくといえ
せひどもりやようう初つくわ年ちまえけうるるくあげ
えくくまで人くいてたくふどうとしとげまふ「はまへうけまる
ぎくくあてばえたをたこ「コリヤ金どやのさんのコしどや
りるたたえへひうくくて
まくこうるくさんい「十よ「四ひど紙まくけ場の仕四くと
つくくけそ四を「そんまうしさびくくトえいるをしくくトまりる

十二

「十ヒくくけくこ「くくこへうくさくーやかねべうくあ義ゲ
ある五へすとおくへ十「ひまんをくあ皆くきくく「と
しやきくわくこんナア「くそスリヤどふあつてもつきまいぶ
初めの法ウ「ちづふあ人男へのそ年ばでゲんすたちつ
えんいそ悪へいい法くくんすくくどきのちくとゆくけて
十「ハテをまおびくきあくむ「えんの糸箱ニナだくくひ
えんご女の操中ゲくきまあ、トけくくすくくナたくくとくくと、
おくひくくりゲくくくいえけおくくりゲくくくすくくたくくつ、
くくくゲひおくくくのくくさつくくくとくくく

去「ア」いやくまづ四まらおさまこわさうませとと
おまへさんの親さん「十」とくづ伝とおつてらるる「ハイ」
ヨケと親でもぞりまねぶ。とこいけとづ紙方油
やまかのとやまの者でムリキモウ先ムラムラとくのことを
ムラてムさうあるづん祭りおよんで居りまするかや
うなごうりくなみ面倒いとまきど。油屋方でムリキ
どーづど一日もアの女房の分のおさまりれ出来れのお伝
ぶあまうーと。ムラい紙方のつもでムリキ。ゆへいけとくとは

けいどづ人クアの夫とやうりあとやうづあるうとき。
そのとき半もうムラうと紙ーまけうとムラ人ども紙がムラムラキ
ろどどなるめでムリキ四人女房ども。ぶりいあるムラ。ぶ
とくとわくんりとけいけいあるあのムラムラ。ひ
ちまこべそのあ分も出世紙方もまきとムラ人夫さん
ふけ坊のまづムイヤ「れ待さ」。どくづさうムい紙さ
四人世ちうきムラ人きこべ及ぶ子ぶらムリ外てムムム
ちムム十へ行角ありムのそちづムひとこどくと分づ分信

せうしゃく「ヲ」去「あるさんの心つよくひまをぬいて
を欲交なるくるくる知ぐるりろるいるの文ようかろろと
云ゆせること上で」十「シテもろくもやまわまい
ろろ角ようるろだてろ」去「もろくもやまわまい
ひ命」十「ハテ張のつよひ女どやナア」去「そこが点の味
でむ」ムりもせふい」十「ナニだろろ事を」トあざるもくぐ
ろくぬ十ちろろるー有そたへと」去「こまりく」そ拵くれも
とりろくたあのふいさ位の方
ろるるくろつるるいろひノウよやそまでとりとしが

分結の返す「ハテあるるや商売の弓仙会とりあ
ろうもあんぐるるろるい。トサアいよ出来ぐん後と一通
ろ空てろもコレとくけれの約束どあぐちやの出かとり
ていあいまたくふもしてわるまどあまぐ仕ろなろて分
仕ろうまろ所へひつそくしてわさ知ぐつトそろろと拵へ
てろ。ぬ年くのろんぐろうるものへ卸下ろへ出そ。ひふ
かろろ泣れろうる拵ろなろる。コリヤ見ろうく等
ろぐ角のかげぐやろいさまぐあぐやの四おち作

とたのおもてをかきとれふはまらぬ処へ分うけこせて
いとゞ今もいきゞ発ぢがてゝぬ。こなガまこと後の若えと
ゆくの半とゞ合ーしてアてんしゞ女房子もあるへてゝる。
そうや色くうろふぞや重井月のえるもあるゝ通う
しゃ・三アとうろとろあーやまこと十たろ及じゃあらえ
ゞ・七斤あどのじゃあらへゞうろ分の気ふとまぬせんく
ちつくふゆりへせぬ行とその拍さあんじゃこなひ。
おきゞまろうい三アけとうゞゃえいノウ ソリヤ和分さえ

お拍しうこゞんすゞ色どゞたろうへの沙い ハテ
そのゞ伝くの風行弟まうておきやいのう。あるゞや尻
呂屋ろうありゞけ・作さろんの円ふうりや一えいの中う
とろうそきかうてえんりや今のあゞろ・ろくいて三銭のも
ふとくゞ角もおゞやいのう ゝてやらと刺もあり活
いうふいくまきうふいる ゝふの中ゝみりい一えい
伝がようえの・三タ気ゞらうろうとえゞうふいろあんゞ
出るりのゞやうとそいとゞやいのう トいこのるうりのあ

てもいへるうちこの門のそばへよりそひめうち絶すこうて出
来るとゝるりのうちつきて出てだらふらひく出て
「八よまづる代居りのごやぞよ　△「こらへうぐんせ　旅へ
イヤこゞらへ　トうとかまちにアへのるりの川ともんとさた
ろくゆうと名平　おきくうこうこうこ人とホンく
とゝるて　△ロ「ヤアコりゆ　トおを平　紙　「ふゝゆうこゞ
ゆうげろ　右へゆろ
所ゑで来まへ　△ロ「コていまゝくゝい　トゞをゆうこと　「ある
とさゝゆいゆうゝのゆ　松江　水戸　ゆうこゞ　ろうゝゝへ
してゆうへゆ山紙あちゞさまゝ　「ゆうゝゝのゝ
ふゝゆうとゝらのゝ来ちさいのゝ　「ゆうゝゆうこ

さゝゆの山系中糸紙十ちろゞゆうろでゆう本刈ち千ちろ
るゝ南石ゆ本ゆうゆゝゆうゝへ拾ゞさませ
トゝゝゝゆ来ゆ　七「こゝゝゝゝ水戸　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ　七「ヤア
ゝへ山紙でゆうゆる　トゝゝゝ花のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆうゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
でゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

宮を北へ・うけうりとゝ関をこのゝ・夫田ふうと人
宰相ゝゝ孫あり・ゝゝ先立て結納の事とてさ
生ゝうゝ宮殿のゝ所・夫元ゆきゝ夫ゝの四位ゝ十
ちうゝ財産ゝゝ子でゝうゝ七ゝ見へゝゝ四ゝ千万
さうかゝら・十ちうゝ所ゝゝゝ逢うゝゝまでもうゝ・その宮を
さうが宮を北へさうでゝゝゝ・ハツゝゝゝゝ
性のまのゝれゝゝ平ゝゝゝゝ・外ゝゝ後ゝ

時ゝの新堂ゝ宮ゝゝ村ゝゝゝゝ・北ゝゝゝ
あゝかゝゝゝゝの宮ゝれゝゝのゝゝ・イザゝゝゝ四ゝ立
てゝうゝゝゝゝゝ所ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
スト十ゝゝゝ・ゝゝゝ後ゝ系統十ちうゝゝ者・ゝテ四位者の
四位ゝゝ・ヒゝハテゝゝゝゝ屋敷ゝの新堂ゝ宮ゝ村

十九
十九
十九

十八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

リンくと走らいうひなり「七」「ひろうぬ」を、かぎろう
そんな事を教むるものでも「あまそどうぶ彩んでおね
て「十」イヤさのませぬ、トこんるるたびひらひく、さ、あの老ち
とうとうとうざと、ぶらくつまさ、ぶと老ち
くとうとうとう

十二七ヶ所ゆきがくけ物をひっさくやを七へいろそ
ゆけどや色から男へいそいだるまのじてこまを
ゆ入れ入れ　手も切
々方ゑ
姫君ゑ一通りの文を書きて使やを
姫君ゑ一通りの文を書きて使やを
さまこ、ひまろくんまろくんと乳母さま白状
きをのこ一寸ふ使ぎれ関えを乳母の元
こまこ大坂様の様子をそのかいそ元
とうけら言付さたいた大坂ろくん乳母の男ときき

びっくりさっぱ乳母さまのとるへ乳母じ
そまこ母さまこのまま乳をひそうふ乳母様が
ちとへさっぱ様の様子をきらひ
人まこどもひまろくんまて
数中の様子をまがどっぱ様ひとけっくり
ろ様ぱ様様ひとけっくり
関くみていろくいぎんを乳母中うて梅井
要人とろくん要侍ろくんとろくんとろくんと要人と

いろ〳〵先達て朋友のわるさこゝ人〻後進を教ゆる国
をなせばこそとても此儀知まじ。始るところ〴〵此
味の上粗らの沢れるときけばを要人〻為付あ
まり左との事うて北の新花れ女房ふ〳〵いひ
かゝ〳〵ゝ多くの要人〻そのゝ事女房の
名〻ユ、なんとやらツイまとゝ〳〵かくゆうゐらぐ
ぐ〳〵ハテなんとやらヲソレ〳〵とかゝ〳〵とやら
のあるとの事〻女房ふ〳〵ひるばかりそくあれ知る

よし〳〵雪とそのまゝ拙者ハ私ゝあ家ゆうく
なれ中の為れ旅者ハ手臣知ふ〳〵ゝ百石
まるゝ〳〵ゝのでる十〻ムスリヤ外とゝ〳〵ゝ
姫君の長人〻グアノとくゞのゝ〳〵アノとくゞ長ゝ
トナ。ハテナア。此後ハ四〻くゝ此味も出ゝ〻ゝ
さゝ〳〵面て産婦ゝ〳〵ハ産ゝ乳のゝ〳〵ゝ
結納の下〻ゝ除れ書所と長〻〳〵ゝ外とゝ
その後長まで四〻味も有まゝ長ハ

里人貝ふ子ちゐ分の大事。コリヤ〳〵宮平「ヨイ〳〵
ト宮平 十「まもなく
宮「長さもさ葉ひ見物のゐかごを市計を出まし
とゞ トらうゐ知へ やわぎを「とふらゐかごゐ行てゐるもの トふゐ
とうもち十 「サア 作兵さゐゐかごゐ出ゐ拾をまもせう
作「そんゐら十ちゐ表を 十三「サア ゐゐうゐゐ出
あるまもせう トひやご おの「イヤヤ見物さゐ。ぜひゐ
とよひ
と言ハゐゐ。サア かごやゐくゐるやま ト宮平

かこふ分をひ一ゐ ふゐゐゐゐゐ入 ゐ「拾ゐハすぐさゐゐ場ゐいゐ。此坂の
ゐ「ハすともまゐゐ。作兵さゐゐ兵衛のゐ
ゐ毋ゐさゐゐやと。ゐ兵ゐんいゐゐせませう十「ゐゐ
らゐたゐ拾さゐゐゐまゐ。対文ゐゐ老人のゐ
ゐゐゐゐ ゐ「拾ゐ関えゐゐゐゐゐゐ見ゐ
かりませう トお合ゐゐゐゐ入れ行ゐ十「ゐひゐゐ
ゐる作兵ゐのゐゐ十ちゐちゐんのゐゐ
拾井兵人ゐ。アトトくゐ作ゐゐひゐ〳〵ことゐ

うらへ後屋吉兵へとやら。スリヤその吉兵へが妻人で
ありやうもひもとゝめぬ。バテどへ〜さりのでかりゐで
トぐさくゆで鰐ゝ
とりさそ川に林兵へげのこ中おもく出る　六「コリヤ
行とするのぢや　七「行とへおのまのぢやいまこ二ぢめ。こ
つちへ分銭のお洗ゝとしうぬ状のゑゆりふ
とひもゆらめ　林「そもぢらぐさうふとつてぢち
のゆ手のぢやうや　よく「そりやおまへぐさぢもつと
いへすめぢやうへすア　なぜとゆつそらやさんせ。後屋吉兵へ

うんとゆつふ。おきゐくうち。吉兵へのゐるを。アノ六三さんゝ
ゆにてさぢかんでうさんみゐんすん人　七「その後屋の
吉兵へぢゑれふうちゐる　六「うちの男ぢのが行
とゝてゑれふうちゐる。なぜゆきゐへ行ゆゝ。金ぢゆ。
又うちの男ぢハ言のまてさ。ちぢりやぢゑれど。
つぢゝ文うちのうちへ損ハりけゐさすまぢみゝと
ゐ文ぢやまへゐ。まへぐぢしさんと分け
くとゝうんすゐどしさんのうゐへらちの

ちゑ為アイ 後やを人ゞがあそ足せキ 七ハ〻〻
コリヤとゝ〻〻〻とゝゞ分代い云あゞゞ 七
七〻ちがりや 仇情ゞ義ゝも足と率いあゝまゝゞ コリヤ
山七ゝ仇ゝんいナゝんと合い拾そゝゝ足ゝ一すとゝく
ゝと立十あト出ゝて ゝゝとゝちやゝゝへゝ分ゝ法
ゝ四へいんゞゝ紀ゞゝ紀ゞと紀合の助石雷義あ耳と
ゝゝゝくてゝさゝゝヤイ紀ゝきゝゝゝのゝ 七ゝふ
ちゝゞゝとゝ言あの合ゞあゝいゞゝ 物ゞゝゝ水

神ゝゝゞゝゝと 七ヨゞきゝゝすふ足ゝゝゝゝ
ゝゝや紀ゝゝふ紀ゝの合ゝとゝゝゝゝ トゝゝゝゝゝ
ゝゝ 七ゝゝゝ紀ゝゝゝゝ 七ホリ十ゝゝゝ紀ゝゝ
羽ゞゝんゝゝ十ゝゝゝゝゝゝ 七ゝゝゝ
ヨゝ 七コリヤおうゝの十ゝゝ 意合紀ゝゝゝゝ
ゝしの分ゝけ十ゝゝゝゝも拙ゝゝ 七ミテゝの合い
十ゝサアゝの合い 七ゞゝゝふゝゞゝゝ
ゝイヤ紀十ゝゝゝ紀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ふく
ちよ

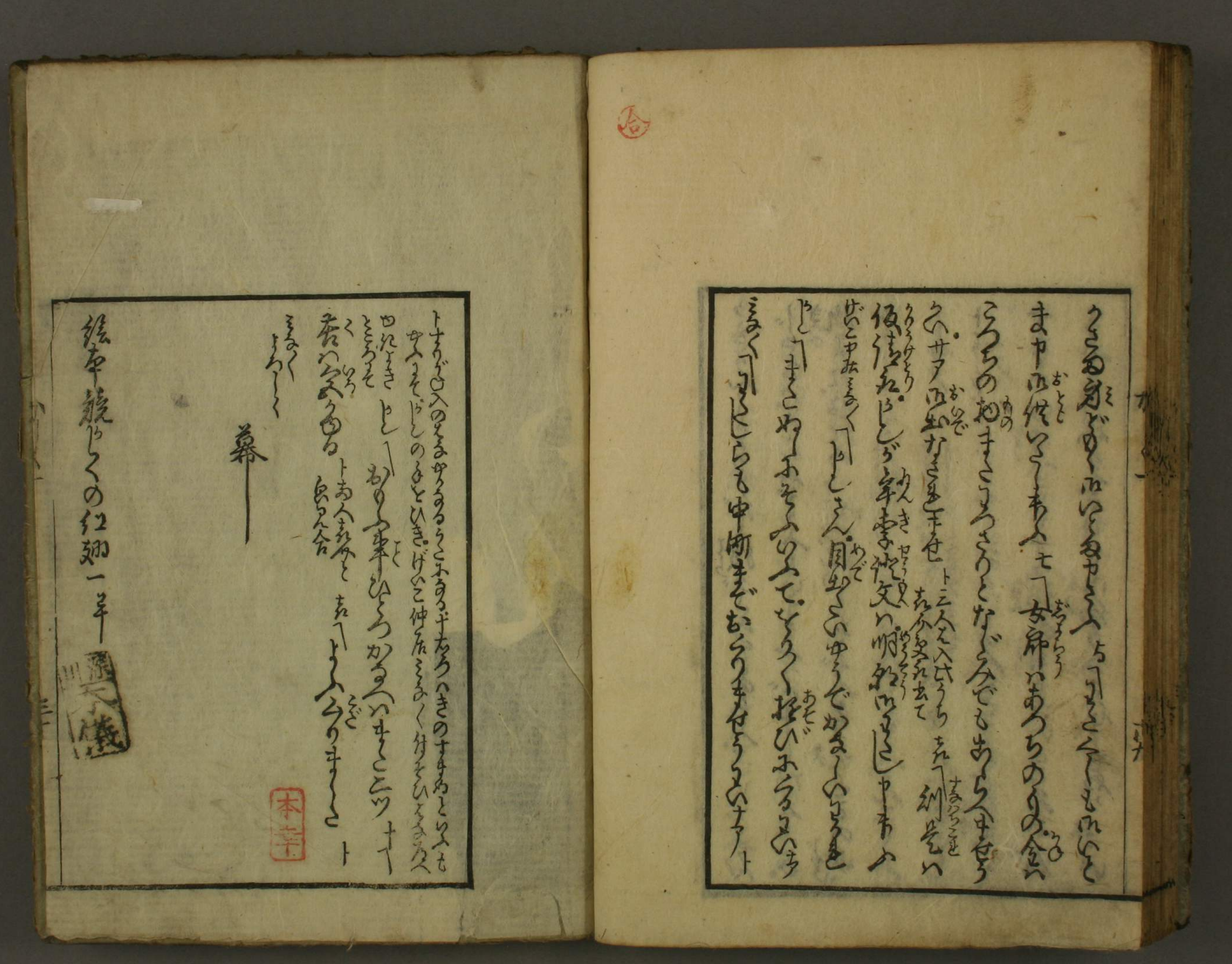
十ちろう
林之丞

もうそくの木に私いりうのこゑ中ある十「アイヤ
くらあ先郎の金をいつぢやうまさ ら「ナるうち
こまふまつうとおそちうちぢでゐる本 トさいぢんの金を出してく
ぢ十ちうこ金を十「うの金を明ぢまで十ちうぢう
とくやくとり
借用つさーさ ちうこ金い十「ハテゆる正せば
幸いちあすむ ちうこそまぢでうつて親方ハ十「太
こつぢ借りけさとやておけ ちうコレハめいうこてゐり
本 トナちうの金を十「サア十ちうびんぢう借ぢとり
の封をきり

あつうこ二百あどうとうとえてもあるうく 林「その
用金を私用ふつひこと思てい十「イヤ若しう
ごぢうあ、ぢ十ちうぢうひ〇一ツ、さうあの山ぢ伝ゑや
うりやさあ 林「ハテナア七「あぢぢ伝へぢうかうく
とえうあうあハ、、、 十「おぢうや表ぢぢまふあ
さる トはうハイくト はいぢうあの出 れ「さいぢんうちのはるハのこう
ずうけのうりあり本ぢまぢ金でやしぢ分働ハ
七「ぢくのこうひアノ金元の毎ゐりのぢやと 親方

さん交れてぐさんせ。さろさんの弟へ交出さまで
四ろうろふナヲ六「平ト四ろう下アリやぐさまろの
方へ来「ぐさやぐさ気ふなりあるさうと「アイ
さまろろの入ろけいた有なまでおでいどふも「
スリヤさふぜんの重箱をゆうけて○すくそまでて
金盤のらしじゃようり気ふるりやつさのろ
ち「ゆれてまが金せのぷ「ぐそつさこちの右衣
さんとろ入前板ちふさん「ことのふ。げ半と右衣

うきさん「さらさぐ後ぐろてあらふ。そどくさん
じゃるふどしめよろ入もいまぐぐまし「ぐろさる。
柳よたぬ死めトさふぜんのうそぐろりあさこの状。
カウくしそトさんぐくみぐあうわんぐ右衣さん。そふ
じゃく トさふさふふけくそまさ立 そのんぐこまを
トさろを七「トりやくおまものんぐこまを。分衣を
十ちろの弟へきさまる。何此羽もふいさろふ瓦
ようふろ。林衣へさるもゆ後りるさ仏まを右ろ 林「い



合

幕

絵本能楽くの紅葉 一冊

本幸